

令和2年度 第3回学校運営協議会（記録）

日時 令和3年2月26日(金) 14:00~16:00
場所 大阪府立堺上高等学校 校長室

出席者 【委員】 会長：馬越 かよ子 奈良佐保短期大学学長
副会長：井関 雅 堺市立上野芝中学校校長
委員：阪本 拓也 堺市立福泉上小学校校長
委員：岡田 浩治 大崎工業株式会社総務部長
委員：藤澤 眞之助 ファミリーマート FC 堺上店店長
委員：柘矢 健一 堺上高等学校 PTA 会長

【事務局】 校長：中川 明子
教頭：大窪 成人
事務長：中田 博之
首席：森岡 訓子
教諭：林 亜妃子 (進路部長)
教諭：塩田 健 (生徒指導部長)
教諭：北 晃 (1年学年主任)
教諭：徳庄 正幸 (2年学年主任)
教諭：福田 眞孝 (3年学年主任)

内容

1 開会のあいさつ【校長】

昨日第35回の卒業式を終え262名の卒業生が巣立ちました。今年は、緊急事態宣言下での卒業式でしたので、保護者の方のみの参列で行いました。本日、本年度最後の協議会となります。今年度の取り組みを振り返り、忌憚のないご意見を頂戴し、次年度に向けての改善につなげていけたらと思います。よろしく願いいたします。

2 報告

(1) 令和2年度学校教育自己診断について【校長】

生徒の診断結果については、ほとんどの項目で(50項目中42項目)数値があがっています。コロナ禍で休校となり、学校生活が生徒たちにとって大切な時間だったと感じたのではないのでしょうか。今年度限りにならないよう、引き続き充実を図っていきます。

教員の授業技術面では、わかりやすさや授業における工夫など、ほとんどの項目で肯定的な数値が上がりました。生徒の実態に即して、達成感を持たせることを意識した授業が増えてきているのではないかと推察します。相談できる教員や親身度合い両方とも数値が上がったこともうれしく感じています。

ルールを守る意識を育てながら、学校生活での充実感を生徒が抱くためには保護者の方の理解と協力が不可欠です。保護者の回答については、子どもが学校へ行くのを楽しみにしているという項目がやや減少しましたが、子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っているという項目が生徒の回答同様上がってきているのは、うれしいことです。一方、家庭への連絡や情報提供については、肯定的評価がやや減少傾向にあります。本校の教育に興味と理解を持っていただくためにも、タイムリーで適切な情報提供を心がけ、PTA活動の活発化などを通して保護者と連携していきたいと思えます。

教職員については、学習指導や生徒指導についての数値の高さから生徒や保護者に寄り添う教育についての意識の高さが伺えるのですが、校内人事や組織体制のあり方についての数値が低く、次年度に向けて改善を図っていききたいと思えます。

(2) 第2回授業アンケートの結果について【校長】

授業アンケートについては、年度後半は教科の授業内容も難しくなるので、これまで数値が下がる傾向にあったが、今年度は数値があがっています。2学期後半から授業観察を行っていたのですが、ICTを効果的に活用し、生徒の興味関心をうまく引き出す、授業づくりに取り組んできた成果ともい

えるのでは。やはり、授業がわかって楽しくないと学校も楽しくありませんから。高校でも次年度は観点別評価の試行となります。新しい学習評価導入に向け、教員も楽しみながら授業づくりに取り組んでいくことができればと感じています。

(3) 令和2年度学校評価について【校長】

教育自己診断の結果と分析、学校運営協議会からの意見を追加しました。ご確認をお願いいたします。本年度の取組内容及び自己評価についてですが、目標を達成した項目が増えた一方で、目標を下回った項目もあります。原因をしっかりと分析して、やむをえない理由があるものを除いて、次年度の学校づくりの改善につなげていきたいと考えています。

今年度は、緊急事態宣言下で堺上高杯を中止しました。しかし、本校の大切な行事であることには変わりはありません。次年度は時期を探りながら是非とも開催していきたいです。広報に力を入れるようにアドバイスをいただいております。教育情報部を新設し、広報活動にも組織的に取り組んでいきます。

会長：今年度のアクセス数が80000件ということですが、アクセス数が増えたのは何が原因だとお考えでしょうか。例えば、ホームページは保護者が見るのですか。どういう人が見るのですか。

校長：保護者も生徒も中学生も見てくれていると思います。今年はコロナ禍で休校をはじめとする様々な連絡がありました。緊急連絡については、印刷物で間に合わない場合もあるので、ホームページを必ずみなさいという連絡をしています。もちろん、中学生の方も学校を選択する際に参考として見ていただいていると思いますが、みなさんに見てもらうためには更新を絶やさずタイムリーな情報発信に努めなければならないと感じています。

会長：わかりました。今回はコロナで、家庭と連絡が必要になるから、必ずホームページを見なさいという学校側のご指導もあったので、生徒さんも見るし、親も見るようになったのですね。ホームページを見る癖をつけたところからアクセス数があがったのですね。

(4) 令和3年度学校経営計画基本方針（案）について【校長】

「1めざす学校像」と「2中期的目標」をこの運営協議会で承認いただくこととなります。めざす学校像は変えておりません。また、中期的目標の1～5の項目自体も継続の必要性がありますので変更しておりません。ただし、内容につきましては、より学校や生徒の実態と社会の動きに沿ったものとなるように変更しています。特に、「1確かな学力の定着」の評価指標につきましては「教え方に工夫をしている先生が多い」に「授業はわかりやすく楽しい」を追加しました。また、組織的な授業改善を図るため、授業研究委員会を新たに立ち上げましたので追記しています。

⇒「1めざす学校像」「2中期的目標について」を承認していただいたことを確認

会長：指標の設定は難しいところがありますね。数字というのはそれに甘えてはいけないのかなと思います。7～8割になったらいいというのではなく、逆に2～3割の生徒がいるという視点を忘れないようにお願いします。そのあたりを考えて次の改善策を考えていくのが、本来の学校評価をする目的かなと思います。また、先生方は授業を工夫されているのですが、教員同士のお互いの研修とか、ある先生の授業を先生方がご覧になって、同じ教員の立場から、ものすごく工夫しているなということが見えてくるような場づくりみたいなものはあるのですか。

校長：授業見学週間を11月頃に設定しお互いに授業をみることで自身の授業改善を図ってもらっています。他の教員の授業を見ることで新たな発見や学びがあるようです。

会長：教員が自己満足しないように、必ず他の教員が評価をして、お互いが切磋琢磨して授業力を上げていこうということは大学でも同じです。授業を見たあとで、先生方が研修会などをすると面白いかなと思いました。

校長：授業に関する大きな研修会は1回しかできていませんが、日常的に互いに授業を見学し合っ、切磋琢磨していく、同僚性を活かした授業力向上をめざしたいです。そのしかけ作りを、どんなふうにしていったらいいかというのは、教員と話をしながら良い方法を見つけていきたいと思っています。

委員：「社会に貢献する人材の育成」の自転車事故の報告を3件以内とするというのを読んでいて、生徒の安全に関わることなので、これはゼロではないのかなと思いました。結果、3件であっても、それは指導した結果そうだと思うので、やっぱり構えとして、0件をめざすべきではないのかなと思います。

校長：確かにおっしゃるとおりです。現状に合わせたような数字ではいけません。交通マナーの向上、事故防止の講習会を実施するなどして自転車事故0件をめざしていきます。

(5) 学校の近況報告等

① 各学年の様子【各学年主任】

➤ 3年

昨日、無事、卒業式を終えることができました。式自体はすごく落ち着いた良い卒業式でした。生徒は成長したかなと思います。終わったあと、ファミリーマートさんにはご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。4月、5月が休校、6月の分散登校から始まり、限られた日程で、進路実現に向けてどう進めていくのかということが課題でした。テストや補充授業を土曜に入れて、夏休みや冬休みを短縮する中での一年でした。生徒もかなりしんどかったと思いますが、みんなで頑張っってこの一年を乗りきったかなと思っています。マスクをした授業も夏場は耐えられないくらいでしたが、そんなことも今では、良い経験になったのかなと思いつつ振り返っています。2年次の体育大会は雨で中断、冬のスポーツ大会はインフルエンザが流行って中止、3年になって、さあ行事をと思っていたらコロナ禍となりました。学校行事についてはできるだけやらせてあげたいという思いがありました。体育大会は中止となりましたが、遠足やスポーツ大会、文化祭等の行事を実施することができ、生徒たちはとてもエネルギーに頑張れたかなと思っています。進路も結果を出してくれて、皆で頑張った一年でした。

➤ 2年

どちらかというとおとなしい生徒が多いのかなと思いますので、自分で自分の進路を築いていけるのかなと心配などがあります。一番大きな行事の修学旅行が行けませんでした。当初10月に予定していたのですが現地の方からの断りがあり、行先を変更し日程も2月に延期して準備をすすめてきましたが、緊急事態宣言で行けなくなってしまったという状態です。楽しみにしていただけに残念でした。コロナ禍でストレスのかかるような状態ですが、遅刻は多くあったものの欠席は少なく、生徒たちはよく学校に来たかなと思っています。あと1年間、コロナの様子を見ながら、充実した生活を送ってもらえるように頑張りたいと思っています。

➤ 1年

入学式の日が2か月遅れました。空白の時期があり、年度当初は大丈夫だろうかと不安を抱いていたのですが、始まってみると、生徒たちは学校を楽しみにしていたのだと感じるところが多々ありました。出席率も非常に良く、本日も、この雨の中、遅刻や欠席が気になっていたのですが、ほぼ全員出席している状況です。学年として重点を置いて活動してきたのは生徒指導の面です。校則を守ること、遅刻をしない、授業を大切にするというところを、徹底して指導しています。基本的な生活習慣については大分身についてきたかなと思っています。学校行事の遠足やスポーツ大会は生徒が積極的に関わっている状況があります。次年度は修学旅行があり、文化祭でも中心学年となります。そういう生徒の活動を、生徒が主体になるようにしっかりサポートしていきたいと考えています。来年度、力をいれていきたいところはやはり進路指導の部分になってきます。1月末に進路希望調査をしたところ、240名中、60名が進路希望未定ということでした。勉強の面では積極的に取り組んでいるのですが、具体的にこの先のことを考えられているかということ、やはりそうでない生徒も多いなと感じています。自身の進路についてしっかりと向き合っていく、といったところを積極的に進めていきたいかなと思っています。

② 生徒の現状について【生徒指導部長】

今年はコロナ禍ということで、誰も経験したことがない状況だったのですけれども、実は懲戒件数も遅刻件数も減少しております。大きな乱れもなく、皆、学校生活を送ってくれたので、りっぱやったなと感じています。ただ、交通マナーが悪いといったような外部からの苦情や通報がありました。そこをなんとかかしたいなという思いです。先ほど、校長の方からも交通マナーについても出

ましたけど、そのあたりしっかり学校として取り組んでいきたいと思っています。今年度は、コロナの関係で外部の方に来ていただいていた指導ができませんでしたが、来年度はコロナバージョンと言いますか、すべてにおいてなんですけども、コロナを踏まえての指導方法を考えている最中です。あとは懲戒指導において、この間も注目された裁判も終わったところですが、時代に合った指導をしていかなければならないなと思っています。

③ 3年生進路状況について【進路指導部長】

資料を1枚用意しています。今、総括をしている最中ですが、その抜粋です。昨日までの状況をまとめました。35期生は本当によく頑張ったなと思います。3年生のスタートの最初の2ヶ月が無かったのはとっても大きく、生徒たち心の準備も、具体的なオープンキャンパスへの参加や、勉強のスタートもすべてにおいて遅れたことが本当に大変だったように思います。その中であつても担任の先生方や進路指導部の先生と協力しながら、できるだけ指導してきたつもりです。フリーターの生徒も数名いますが、語学やダンス、ボクシングのプロを目指したいとか、やりたいことがあつての前向きな選択がほとんどになっておりますので、それはそれでありかなっていうふうに思っております。スタートが遅れた影響もあり、未定の者もいますが、みんな頑張って、何かしら道が開けるかなと思っています。

④ 国語科より【進路指導部長】

3年生の現代文の授業の一環で、作文を書き、朝日新聞の「声」欄に投稿し、2名の作品が掲載されました。例年、やっているのですが、テーマは人に読んでもらうことを意識して文章を書きましょうとしています。新聞に投稿するのは手段のひとつです。独りよがりでないきちんとした文章を書く練習をしています。みんなとてもよく頑張りました。

3 協議

○次年度に向けて（司会進行：会長）

会長：今日は学校の現状であるとか、いろんな評価だとか、次年度へ向けての計画、思いなども聞かせていただきましたが、それを元に皆様方で、ご意見、ご提言などがあれば、話していただけたら、学校の方でまとめていただけたらと思います。

委員：コロナの感染状況はどうですか。感染対策や対応はどうしているのですか。

校長：感染対策はなんといってもマスクの着用を徹底することですね。先日も校医さんに来てもらって、マスクの効用について放送集会をしたところです。あとは、換気と昼食時のマスク会食の徹底です。コロナの感染者が判明した時は、保健所や教育庁と連携しながら対応を進めています。これまで、本校に保健所から疫学調査が入ることがなかったので、臨時休業については、疫学調査が必要かどうか判明するまで期間として1日半だけ学校を休業しました。

会長：コロナ禍の中でも生徒さんたちは学ぶことが沢山ありますね。自分も守らなければならないし、他人も守らなければならないということがあるのかなと思いました。

校長：おっしゃるとおりです。自分自身を守ることが、他の人も守るということにつながりますから。

会長：今年も入試がはじまります。志願者を増やせるかというのが次の課題ですね。

校長：私学の専願率は以前より高くなっているのでしょうか。

副会長：うちの中学校では専願は例年より低く2割強ですね。昨年度より専願が減りました。無償化もあるのですが、やはり、経済的な理由が専願率に影響しているのではないのでしょうか。

会長：無償化になったと言っても、全員が無償化になるわけではないです。所得によってという条件が付加されるので。やはり、選ばれる高等学校でなければならないのが、大前提ですよ。

中学生にとっての情報源は先生からが一番多いと思います。中学の先生からすすめられて受験するというのであれば、ダンス部が外に発信をしていくと、ダンスをするかしないかは別にして、部活動が熱心だと受け取るわけです。また、ホームページや先ほどの新聞へ掲載されるということがあると、堺上高校ではいろんな取組みをしているなど。また、中学生にとって先輩というのは大事ですから、堺上高校の生徒さんが中学に行ったときに、「面白い学校やで」とか「良い学校やで」と言ってもらえることが大きい力になると思います。それとあわせて、中学校の先生に推薦してもらおうためにも中学校を訪問して中学校の先生に堺上高校の良さをわかってもらう、それが大事かなと思います。中学生や保護者に堺上高校がどんな学校かという情報をちゃんと知って

もらうためにもどう伝えていくか、組織的に戦略をもって広報活動に取り組んでいくことが大事なかなと思います。

校長：先日2月20日（土）に学校説明会を開催しました。保護者と中学生80名の方に参加していただきました。当日参加OK、入試直前での開催でしたが、やってよかったと思っています。多くの方が堺上高校を第1志望にしてくれていました。学校の雰囲気を知ってもらい、納得して受験してもらうのが一番良いと思います。中学校訪問も実施しています。地元志向が強いとお聞きしています。実際、本校のほとんどの生徒は自転車で通学しています。訪問した中学の校長先生から、この地域で幸せに暮らせて行けたらいいという感じのお家がおおいですよと、お聞きしました。地元に基づいた学校づくりをしていく必要があるなど感じた次第です。引き続き、中学校にご訪問させてもらって、連携をすすめていきたいと思います。

会長：可能だったら、高校生が中学校の部活動に参加させてもらい、何かやらせてもらうと絆ができるかもしれませんね。部活動だけではなく、小学生たちと一緒に本を読む活動をしたり、折り紙を折ったりして一緒に遊ぶこともひとつの連携活動だと思います。お兄ちゃん、お姉ちゃんに教えてもらったということで、小学生から見たら高校生は憧れの人になりますよね。偏差値で学校をランク付けするということは元々あるでしょうけど、それを超えて、人間を育ててくれる学校をそれぞれの学校の先生たちは望んでいると思います。地域の中で良い人間関係を築きながら育ていけるような、そんな人材を育ててくれるような学校に、地元の学校も子どもたちを送りたいと思っているのではないのでしょうか。

委員：中学生は地元志向が強いです。また、保護者負担のことを考えると自転車で通えるいい学校があればという思いもあります。堺上高校がマーケティングをするときは泉北高速鉄道、JR沿線も含め自転車で通える中学校を重点的にあたっていくのが大事かと思います。

会長：そういう意味でも、ここは地の利がいいんですよ。また、塾に対しても広報活動をされるといいかと思います。先生方はこんなに工夫して授業をされています。どんなに良い取組をされていても実際には見えないので、やはり「見える化」が必要です。頑張っているところを少しでも中学生に伝え、中学生たちが行きたい学校、そして行って良かったと思う学校、そして行かせて良かったと保護者が思う学校に。そのために出口もきちんと用意しておかなければならないし、入ってきて3年間、どんな楽しいことをやっているのか、具体的なものを見せていく方がわかりやすいと思います。

副会長：うちの生徒も名前知っているけれども、中身はよくわからないというのが実情です。先ほども言いましたが、親世代は開校当時の上高のイメージのままの方がおおいのではないのでしょうか。現状を知ってもらうことが大切ですね。

【まとめ】

会長：ずいぶんと先生方が努力をされて、生徒さんたちにも来て良かったと思ってもらえる学校になっていて、入ってきた生徒さんたちもすごくいい状態になってきています。そして、それが励みになって、先生たちがまた頑張るといい良い構図が出来あがっています。次の入学者を確保するためにはそれを知らせていかなければならない。大人の頭で考えたこと以外に、生徒さんたちが中学の後輩たちに知らせたいなということを伝える工夫をすると良いと思います。次は「入りたい学校、中学生が行きたいと思う学校」のところへ引き上げるためにはどうするか。それを踏まえて、地元を大事にして、地元の小学校の保護者の方々にもわかってもらえる工夫、そんなことをするとさらに先生方にとってもやりがいのある高等学校となっていくのではないかと思います。数字に騙されないように、先ほども言いましたが、8割の裏には2割の子どもたちがいるということを常に先生方が頭に入れて、2割の子どもたちを支えるための取組みを含めて教育活動をすすめられると、心ある親はそれをきちっと見てくれると思います。

4 閉会の挨拶【校長】

皆様、貴重なご意見を賜りまして本当にありがとうございました。堺上高校はまだまだこれからです。頂戴した皆様のご意見をもとに、いかに学校の魅力を知ってもらうかということ意識しつつ、真摯に教育活動に取り組んでまいります。今後とも、引き続き、どうぞよろしくお願ひいたします。